VARÓN DE DIOS
（神の人）

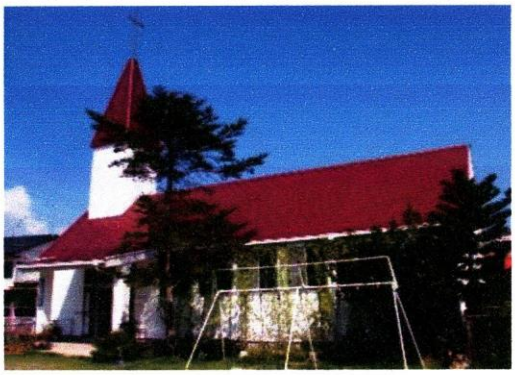
日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団
九州教区　壮年部　2023年11月号

ハレルヤ！主の御名を賛美します。

九州教区内の壮年部の皆様、いかがお過ごしでしょうか。

11月3日（金・祝）に開催された第63回阿蘇聖会は、4年ぶりの対面式の集会となり、講師の姫路キリスト教会の生武嗣幸先生が分かりやすくメッセージをして下さり、恵まれた祝福に満ちたものとなりました。

さて今回の「神の人」は、熊本県西部にある牛深キリスト教会の紹介です。



「わたしの目とわたしの心は常にここにある」（歴代誌下7章15節ー16節）

牛深キリスト教会は、1952年9月にアメリカのソウル・クリニックの宣教師としてアーサー・グレエル宣教師が遣わされ、開拓伝道が開始されたことから生まれました。

そのアーサー宣教師派遣の始まりとなったのは、一人の少女が鰯山（ぼらやま）の灯台に登り、「イエス・キリストのメッセンジャーを与えて下さい！」と献げた祈りにありました。神様が御業を始められる時には、必ず人を用いられます。そして人を通して神の栄光を輝かして下さいます。

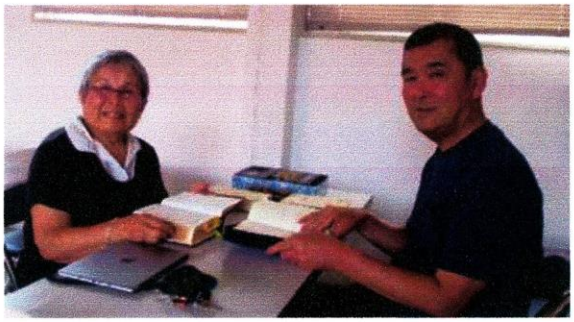
鰯山の灯台は昔も今も変わりなく、闇の海に光を投げかけ、牛深の沖を照らしながら、航行する船を安全に誘導しています。

同じように、この町の民に目を向け、心を向け続けて下さった十字架の救いと神の愛もまた、御光で私たちを誘導して下さいました。

「イエスキリストは、きのうも、きょうもいつまでも変わることがない」（ヘブル人への手紙13章8節）と言われるお言葉の通りなのです。　（三崎利美）

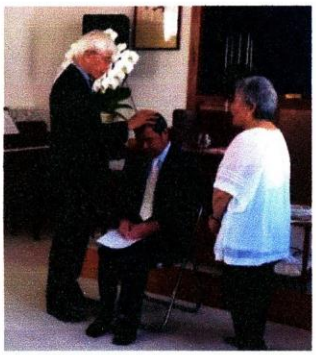
「あなたはわが目に尊いと言ってくださった主」

伊藤孝明



わたしは1945年11月1日に宇土で生まれました。1957年八代へ転居し、小学校まで友達がいませんでした。

中学校を卒業して家の農業の手伝いをしました。父は他界し母と妹の3人暮らしでしたが、2014年9月に牛深キリスト教会伝道師だった姉、伊藤光枝の所に転居し



ました。姉は休職中でしたが、姉と一緒に教会に行くようになりました。

2014年11月からジェームス宣教団体から天草宣教師として派遣されていたリリー師と出会い、週一で自宅まで来てくださり、聖書勉強を始めて下さいました。

2015年2月にイザヤ書43章4節「あなたはわが目には尊い」と言われた神様に出会い、神様の愛を知り、神様を信じました。2018年4月1日元主管者長澤忠雄牧師から洗礼を授けて頂きました。

今はNPO特定非営利活動法人【はっぱ】作業所にも通所しています。教会のためにも頑張りたいと思います。

「洗礼を受けてから」

池田洋祐

私は洗礼を授かって、一年半ほどになります。それまでは他の神々を信じていたこともありました。今となっては、本当の神さまは、イエス様を通し天の神様に繋がることだと確信しています。

他の神々を信仰していた頃は、心の安らぎを得ることができませんでした。今思い返してみると、神々に現世利益を求めていたように思います。洗礼を受けても暫くの間は、他の神々を信仰している期間が残りました。

日本で生きていれば、神道があり、先祖から繋がる仏教があり、生まれ落ちた時からその中で生きることになります。そのような中で信仰に疑問を持つ人は、ほとんどいないと思いますが、幸いなことに私は、その中には心の安らぎを得ることができませんでした。

この願いにはこの神様、その願いにはその神様と、神様を値踏みしているようでした。人間の世界と同じで、力あるものが尊ばれる世界だと感じていました。

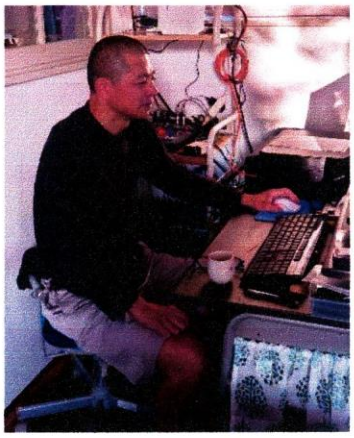
毎週日曜に礼拝に参加し、礼拝に集う人々のなかに居ると肩の力が抜け、他の神々への思いが心のなかから消えて行きました。

礼拝に参加するとき、なぜか初めて聞く賛美の歌に涙することが幾度もあり、天の神から発せられたものには、人の心を揺さぶられることに気付かされました。

見えることでは得られない、見えないことの大切さを教えられていたようでした。今までの人生を振り返ってみると、交通事故により足に障害を与えられ、それまでの自分の人生を諦めることで、新たなチャンスを得ることができました。それはイエス様と繋がることで、心の平安を得ることができたことです。

祈ることの大切さ。私の心は日々移り変わります。祈りを言葉に発することで、天の神様に私の願いを確定し、伝えることができると思っています。天の神様は、すべてのことをご存知です。目の前のことで判断することしかできない私よりも、すべてのことをご存知の天の神様の導きにお任せするほうが思い煩うことが減り、平安に過ごすことになるように思います。

天の神様は、全ての始まりから終わりまでを知る存在です。罪のあるこの世の存在を許された神様は、人間の願いを叶えてくださったのだと思います。天国の平々凡々



とした世界だけでは満足でないであろう人間が、波乱万丈の罪ある人生を選ぶことを見越してこの世を創ってくださったのだと思います。私だったら波乱万丈の人生を味わってみたいと感じると思います。

最近は、何が善で何が悪か分からない日常になっていると感じるようになりました。そのような中にあっても心の平安を得られるのは、イエス様を通して聖霊を賜っているからだと確信しています。

編集後記

私の妻はボリビアのアッセンブリー・オブ・ゴッド教団から日本に派遣された宣教師です。私たちは宣教報告のため６月からボリビアを訪問しました。この３か月の滞在中、多くの教会の礼拝に出席しましたが、その中で気付いたことがあります。それはボリビアのクリスチャンは、よく跪いて祈ることです。礼拝に来た人は、まず講壇の前に行き、そこで跪いて祈ってから、自分の席に座ります。またメッセージの後の招きの時も、コンクリートの床に跪いて祈ります。

エペソ人への手紙の３章 14 節に、パウロが膝をかがめて神の前に祈るという所がありますが、これはパウロの謙遜さと、切実さを表しています。アメリカの著名な牧師であるリック・ウォーレンが彼の著書の中で、礼拝の本質は「降伏と明け渡し」であると書いていますが、跪いて祈る姿勢は神様の前に「降伏」している事を表していると思います。

ボリビアの AG 教団の教会数は 2017 年が 1356 教会、2022 年が 2789 教会ですから、５年間で倍増していることになります。（日本 AG 教団は 216 教会）ボリビアの人口は 1200 万人で、日本の十分の一ですから、いかにボリビアの教会数が多いかが分かります。

このように教会数が増えているのは、神学校を卒業した人が開拓に出るためです。教会開拓をしなければ、教会数は増加しません。またある牧師は、自分の教会で私的に神学校を開いて信徒を牧師として育て、これまでに 5 つの教会を開拓したと話してくれました。私たちはその内の一つの教会の礼拝に出席しましたが、開拓５年目で 30 名ほどの人が集まり、大きな会堂もありました。

イエス様は「収穫は多いが、働き手が少ない」と言われました。（マタイ 9:37）日本の教会の問題は働き人が足りないことです。壮年部の皆さん、「主の働き人」として立ち上がりましょう。（松尾敬文）

広報誌の名前は「VARON DE　DIOS」（バロン デ デイオス）です。これはスペイン語で「神の人」という意味です。

九州教区　壮年部担当　松尾　敬文
福岡市東区水谷 1-14-3
福岡キリスト教会　092-681-5501